

花のき広場の入り口にある大きなクスノキ。南吉さんの時代からずっとこの森を見守っています。

「いささぎ」の繁る森へ
 ごんぎつねが住んでいた
 散策路を辿って花のき広場まで行く
 と、左手に「権狐」の草稿碑があります。
 「むかし、徳川様が世をお治めになっ
 ていられた頃に、中山に、小さなお城が
 あって、中山様と云うお殿さまが、少しの
 家来と住んでいられた。その頃、中山
 から少し離れた山の中に、権狐と云う狐
 がいました。権狐は、一人ぼっちの小さな
 狐で、いささぎの一ぱい繁った所に、洞を
 作って、その中に住んでいました。」文中
 の『いささぎ』というのはこの地域の方言
 で、一般的にはヒサカキと言ひ、童話の森
 にもたくさんあります。実際にキツネは
 ヒサカキの繁るような森を好んで生息
 します。ヒサカキを見つけて「ごん」の
 住む洞を想像すると、森
 の奥へと南吉童話の世界
 が広がっていきます。



ヒサカキ
MAP



「童話の森」とは？

この森は、新美南吉の代表作『ごんぎつね』冒頭に、かつて中山様というお殿様が住むお城があったと描かれている「中山」の地にあります。新美南吉が作中で書いた植物や生き物が感じられる多様性のある森として楽しめるようにプロジェクトチームが活動しています。



自然観察路の入り口にある「権狐」草稿碑と、その脇に植えられたヒサカキ。

童話の森だより

冬号
2021

南吉を読む

『牛をつないだ椿の木』 新美南吉作

（前略）

「あの道ばたに井戸を一つ掘ったら、みんながたすかると思うがのオ」
 と、海蔵さんがもちかけました。
 「そりや、たすかるのオ」
 と、利助さんがうけました。
 「牛が椿の葉をくつつちまうまで知らんごつたのは、清水が道から遠すぎるからだのオ」
 「そりや、そうだのオ」



ツバキ

ツバキ科ツバキ属

ツバキは着物や絵画にも数多く用いられ、日本文化に深く関わってきた植物です。種子からとれるツバキ油も整髪料などに利用されています。童話の森では白・赤・赤白混色のツバキが咲きます。よく似たサザンカとの違いは、ツバキは葉のギザギザが少なく花がカップ咲きで花しべの下半分がくっついています。観察して見分けてみましょう。



ツバキ
MAP

森のたんけん隊



ヒイラギバッジ

ヒイラギの葉っぱをくっつけてあそぼう
 つくりかた

ヒイラギの葉っぱのトキトキの部分を
 ひっかけて好きなカタチをつくってみよう



リース



スター

冬の森の
 オシャレあそび♪

できあがり

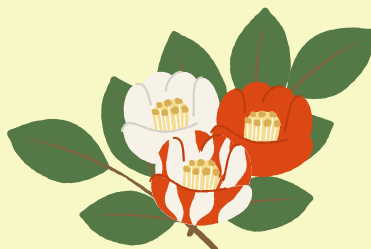


ヒイラギ
MAP

角川春樹事務所「新美南吉童話集」。
 カフェ&ショップごんの贈り物ごんの
 贈り物オンラインにて販売中。



《作品解説》海蔵さんは、牛が葉を食べ
 てしまった椿のそばに、井戸を掘ろう
 と考えます。2年経って、花が三つ四つ
 咲いた頃に掘るためのお金ができま
 した。そして花が散った頃、井戸は完成
 し、人々ののをうるおすようになり
 ました。椿は時間の経過を感じさせる
 と共に、海蔵さんの井戸に寄り添う
 存在として描かれています。



童話の森プロジェクトほか
 矢勝川周辺情報を発信中！
 ローカルメディア「はんの木」
<https://hannoki.org/>



古代オリンピックでは、勝利と栄光の印として、月桂樹で作った「月桂冠」が勝者に贈られました。

ゲッケイジュ

クスノキ科ゲッケイジュ属

南吉作品「巨男(おおおとこ)の話」に登場するゲッケイジュ(月桂樹)。爽やかで甘みもあるリラックスできる香り。新芽よりも熟した肉厚の葉が香りが高く、乾燥させた「ローリエ」は煮込み料理の臭み消しとしておなじみです。手でちぎって香りを立てて使います。



センリョウ

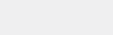
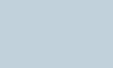
センリョウ科
センリョウ属

マンリョウ

サクラソウ科
(またはヤブコウジ科)
ヤブコウジ属

艶やかな赤い実は、冬の森に訪れる鳥たちの大好物。葉の下に実が隠れるマンリョウのぼうが、鳥たちから見つかりにくいので食べられにくい。

秋から冬に赤い実がつくセンリョウ・マンリョウ。漢字で「千両・万両」と書き、他に百両・十両・一両などもあります。赤いたくさんの実がなる姿は縁起が良いとされ、お正月飾りなどに使われます。南吉の日記に「千両、赤い実。千両は葉の上に実が群がる。万両は葉の下に実がつく。万両は千両より重いので。」と綴られています。



ヒラギバッジのヒラギはココ！
ほかにも森のあちこちにたくさんあるよ



クスノキ

クスノキ科ニッケイ属

香りに「樟脳(しょうのう)」という防虫効果のある成分が含まれ、木の耐久性も高く、古くから幅広い用途に利用されているクスノキ。常緑広葉樹ですがほとんどの葉が4月中に入れ替わり、南吉の4月の日記に「楠の葉は今かわる。毎日落葉がたまる」と書かれています。花のき広場には冬も葉を茂らせた見事な大木があります。屋外休憩所のクスノキはこの秋やむを得ず伐採され、その立派な切り株は南吉童話「去年の木」を思わせる存在となりました。

傷んで倒木の恐れがあったため伐採となったクスノキの切り株。

